

# 四国四県

## ESD

### 実践事例のご紹介

愛媛

#### 防災にも役立つ地域とのつながりづくり 菜の花の栽培からわかるさまざまな活用方法



松山市立新玉小学校の児童が、菜の花の栽培を体験しました。地域の人々に喜んでもらえるよう、校区内にあるJR松山駅に、育てた菜の花のプランターを置かせてもらうための下見を行いました。さらに防災意識を高めるため、菜の花の雑炊作りも行いました。これらの活動を通して、災害時に役立つ地域とのつながりづくりや活動を「公共の場」に活かしていくことの重要性に気づき、自分たちに何ができるかについて、考えを広げました。

香川

#### 山・里・まちのつながりから未来を考えよう 普通寺弘田川調査からわかること



普通寺市立西中学校の生徒が、家族や地域の方から、昔の普通寺の様子について事前に聞き取りを行い、学校近隣の弘田川を調査しました。その結果、昔いた生き物はいなくなり、反対にいなかった生き物が繁殖していることがわかりました。あわせて、川の形状や水の汚濁などの現状について学びました。このことをきっかけに、生き物と人間の共生のあり方について生徒同士が話し合い、持続可能な未来をつくるために自分たちと周りの人が、協力して何ができるかを考え、実行することを目指しました。

高知

#### アサギマダラの飛来する魅力ある地域づくり 文化や自然、命の大切さを学ぶ



香美市立片地小学校5年生の児童が、地域の山に飛来し旅する蝶「アサギマダラ」のマーキングや、卵や幼虫の観察を通して、地域の文化や自然とのつながり、命の大切さを学びました。マーキングした蝶の中には、16日かけて約700km離れた奄美大島まで飛んだものもあり、小さな命の旅を通して、児童らの世界も広がりました。また、アサギマダラの生育過程を通して、「自然」についての理解が深まり、子どもたちから「自然を大切にしたい」という言葉がでてくるようになりました。

徳島

#### 暮らしの中の水を見つめ直そう アフリカから学ぶ、ふるさとの安全な水と豊かさ



三好市立池田中学校の生徒が、アフリカに暮らす子どもたちが描いた絵や現地の写真を通して、暮らしの中での安全な水・量の確保が大変だということを学びました。遠いアフリカの暮らしを知ると同時に、自分たちの身近にある吉野川がきれいだという事に気づくことで、これから自分たちでできることや伝えたいことについて考え、主体的にどのように取り組んで行けば良いかについて話し合いを行いました。